

科目名	ディプロマポリシー	主要授業科目				科目の教育目標
		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	
		①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身につけて、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様なニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。
		※ディプロマポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。				
医療	介護実習			○	○	少数人のグループにわかれて、医療または福祉施設において、介護を必要とする人と直接かかわる実習を行う。実習は夏期集中であるが、前期に事前オリエンテーションを実施するので、それに出発することが必要である。
	チーム医療論			○	○	保健、医療、福祉を含めた統合的なサービスを提供するために、患者や障害を抱える人の問題に対してどのようにチームアプローチする必要があるかを検討するための基礎的知識を教授する。
	教育指導論	○			○	教育指導を実施するにあたり必要な基本的知識を学習し、それをふまえて、医療従事者が患者さんやその家族に対して行う教育指導場面について、具体的な適用方法を学習する。
健康	薬理学	○	○	○		医療従事者として医薬品の適正使用に必要な、1)医薬品使用における基本的知識、2)医療現場で処方される主な薬物の作用と副作用、3)医療従事者として必要な医薬品の安全対策、について学ぶ。
	栄養学		○	○		食物摂取の調節機構、消化と吸収、各栄養素の代謝とその生理的意義等について学習し、人体と食物の相互作用について理解する。また医療職として必要な栄養ケアマネジメントについても概説する。
	精神保健		○		○	現代社会における生活場面との関わりの中で精神保健について、講義とグループワーク、発表を活用し検討する。
	免疫学Ⅰ(臨床免疫学)	○	○			免疫とは、疫(病気を免れる(排除する))という意味である。生体の病原菌や非自己のものを認識し、排除する巧妙な仕組みについて学ぶ。しかし、免疫反応がときに生体にとって有害な反応(アレルギー、自己免疫疾患)を引き起こすことがある。それらの機序についても学ぶ。
	病理学Ⅰ(基礎)	○	○	○		病気の原因とその本態を知る。病的状態における人体の形態的变化を理解する。
	医学統計学	○	◎	○		データ分析に必要な基本統計学と医学分野で良く使われている統計解析法を学ぶ。統計学における数理的思考を学ぶとともに、統計学が医学においてどのような形で使われているかを理解し、最新統計学を学ぶための基礎を身に付ける。
	医学統計学演習	○	○	○	○	本演習では、情報モル・リテラシーを学ぶとともに、具体的なデータを用いてコンピュータを使った具体的なデータ処理の方法と統計解析の方法を演習形式で学ぶ。
	医用放射線科学	放射線生物学	○	◎	○	◎
放射線計測学		○	◎	○	◎	放射線測定器の基本的な動作原理と特性を理解する。診断領域(MeV)から治療領域(MeV)のX線、γ線および電子線の、エネルギーおよび個数を計測するために必要な技術を講義する。
放射線物理学Ⅱ(発展)		○	◎	○	○	荷電粒子および中性子と物質との相互作用を学ぶとともに、種々の放射線と物質間で生じる物理現象の医学的応用について理解する。適宜、演習やディスカッションを行うことで理解を深める。
放射化学Ⅱ(発展)		○	◎	○	○	放射化学の基礎知識と基礎概念から元素化学に関連した化学分離及び純度検定を知り、放射性核種の応用(物質と放射線の相互作用や、エネルギーの収支に伴う化学的変化の過程の応用)や、その利用(放射化学の核医学への利用など)を理解する。
医用データ科学Ⅰ(基礎)		○	◎		○	目標と識別の問題に対する機械学習の基本的な数理とアルゴリズムを学び、実際のコンピュータを用いて基礎的な医用データ解析のプログラミング技術の習得を行う。
医用データ科学Ⅱ(発展)		○	○		○	理論とプログラムの実装を通して、深層学習の仕組みを理解する。内容としては、パーセプトロン、ニューラルネットワークの基礎、誤差逆伝播法、最適化アルゴリズム、過学習の抑制手法、畳み込みニューラルネットワーク等について学ぶ。
放射線機器工学Ⅰ(基礎)		○	◎	○	◎	診断用X線装置(X線管、高電圧発生装置、制御装置、撮影用付属装置等)、X線テレビ装置、その他放射線診断機器・測定器類、眼底カメラ等について原理、構造、特性、規格、保守管理方法などを教授する。
放射線機器工学Ⅱ(発展)		○	◎		○	医用放射線機器は、数理学、信号処理、電子工学の理論を医学分野へ応用した統合システムである。装置毎に個別に学習した理論、技術を統合し、確かな理解と応用力の修得を目的とする。放射線治療機器の最新技術を理解する。
放射線機器工学実習		○	◎			診断用X線装置の制御部分構成を構成する主要な各要素の特性を調べる。実際の装置では高電圧の実験が困難な条件で動作することから、一部の実験項目で代替して動作する等価電気回路を用いる。毎週のテーマ毎に実験内容を解説してから実験を開始する。
医用画像機器工学		○	◎	○	○	医用画像診断機器の構成、動作原理、基本性能などを理解し臨床業務や機器開発への応用力をつけることを目的として、超音波診断装置、X線CT装置の原理、特性や最新の技術、ならびにMRI装置の概要と構成を解説する。
医用画像機器工学実習		○	◎		○	診断用X線装置、核医学機器および超音波診断装置の特性を実際に測定し、具体的現象に結びつけて理解する。及び核医学装置、超音波診断装置の原理と構成を理論と実機実験を通して理解することを目的として、実際の医用機器における特性を直接測定または数値解析して理解を深める。
磁気共鳴画像学		○	◎	○	○	磁気共鳴診断装置の基礎理論と技術を教授する。核磁気共鳴現象と緩和、各種強調画像の形成される仕組み、フーリエ変換法による画像化、種々のパルスシーケンスによる撮像技術、撮像条件の最適化、アーチファクト、安全性、画質評価と品質管理について講義する。
核医学計測学		○	◎	○	◎	放射線測定技術は医療分野のみならず、様々な応用分野も含めて、非常に多岐に渡っている。その技術は日々進歩しており、その状況を把握しつづ、最新の測定技術の知識を身につける。このような広範な測定技術の中でも、主要な測定技術(放射線計測学で講義されている分野)は除き、広い分野から様々な測定器や測定技術を紹介し学ぶことができる。可能な限り実際の放射線測定器を講義に持ち込み、実際に触れることで広範な放射線測定技術を理解する。
核医学計測学実習		○	◎			様々な放射線測定器の実験に触れることで、講義や教科書で学んだ測定器の原理や特性を詳細に理解し、知識を深めることができる。非密封放射性物質の取扱いは習得し、その手法の特殊性について理解しながら実験できる。種子放射線シミュレーション計算(モンテカルロ法)に関して講義を行い、その概要の知識を習得できる。実際、放射線物理学や放射化学で習得した各種放射線と物質との相互関係を、自ら体系化してその手法を適用して放射線の特性を数値データや可視画像から理解し、知識を深める。
核医学検査機器工学		○	◎	○	○	ガンマカメラ、SPECT、PETを中心に機器工学の立場から装置を系統的に理解とさせるを目的として、核医学、放射線計測機器および核医学画像診断装置の原理、基本性能、データ収集などを概説する。
放射線計測学実習	○	◎			診断用X線撮影装置を用いた基礎実験を通して、検出器の基礎特性を理解すること、及びX線の透過過程を学習し、適切な医用画像を得る、被ばくを低減させるなど、臨床的な応用問題を解決できる基礎力を養うことを目的とし、X線撮影装置を用いた実験を行うとともに、電荷積算計など種々の検出器の使用・解析方法を学習する。また、空気カーマや吸収線量といった物理量を測定する手法を会得する。	
放射線治療機器工学	○	◎	○	○	ガンマ線遠隔照射装置、高エネルギーX線照射装置、高エネルギー粒子線照射装置などの主な放射線治療機器の原理について講義を行う。また、高精度放射線治療装置などの最近の話題について講義を行う。	
画像基礎論	○	◎	○	○	医用画像を診断する上で基本的な流れを通して、画像の形成から表示及び画像評価までの概念と理論を認識し、診療放射線技師として最も基本的である概念である画像に対する考え方を理解する。	

科目名	ディプロマポリシー	主要授業科目	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	
			①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身につけて、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様なニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。
※ディプロマポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。								
医用画像情報学Ⅰ(医用画像処理・解析)			○	◎	○	○	医用画像診断装置の発達はデジタルデータに基づいており、診療放射線技術において医用画像情報学の重要性は益々高くなっている。将来、医療機関において画像診断や画像解析に主体的に携わることのできるメディカル・スタッフとなることを目指し医用画像情報学の理論と技術を修得する。	
医用画像情報学Ⅱ(臨床画像解析)			○	◎	○	○	臨床現場で利用する画像処理や画像情報システムに関する基本的知識を修得するとともに、ワークステーションで実際の画像解析を実践することによって、応用力を高めることを目的とし、X線CT画像・MRI・核医学画像を使った画像処理法・解析手法を画像処理ソフトウェアを用いて実践し、基礎知識を学ぶとともに、臨床画像の解析手法を講義する。	
画像解剖学Ⅰ(脳幹部画像解剖)			○	◎	○	○	正常人体の組織、臓器構造のなかで脳幹部を中心に、人体構造と各種診断用画像所見との関係や、医用画像を理解するために必要な基本的解剖知識を身につける。少人数グループで授業前に予備学習し、学習内容を授業にてプレゼンテーションし、質疑応答を行い理解を深める。	
画像解剖学Ⅱ(中枢神経・骨格系画像解剖)			○	◎	○	○	正常人体の組織、臓器構造のなかで頭頸部および骨格、四肢を中心に、人体構造と各種診断用画像所見との関係や、医用画像を理解するために必要な基本的解剖知識を身につける。少人数グループで授業前に予備学習し、学習内容を授業にてプレゼンテーションし、質疑応答を行い理解を深める。	
診療画像学Ⅰ(一般撮影・透視撮影・歯科撮影検査)			○	◎	○	◎	各部位のX線撮影の目的を認識し、撮影のための位置決めやX線を入射させる方向等を人体の解剖構造を基に理解する。また、X線撮影や得られる画像に影響する人体の解剖構造以外の物理的要因や機器的要因についても理解する。	
診療画像学実習			○	◎			X線撮影におけるポジショニング、中心線の決定をX線装置を操作することにより実習するとともに、得られる画像のX線解析を含め、患者の撮影を行う際の留意点の他、種々のX線検査の概要を実習を通して理解する。	
診療画像学Ⅱ(各種造影・超音波・眼底撮影検査)			○	◎	○	○	臨床現場で用いられる画像検査技術のうち、主として造影剤を使用する特殊検査やデジタル画像検査について原理と応用方法について理解を深めるとともに画像解剖や疾患による画像所見についても臨床に直結する知識として身につけようとするを目的とし、スライドや実際の写真等を用いて、実際の臨床現場に近い知識の習得を図る。また、疾患や解剖についてはテーマを決めて自主学習を促す。各講義の最後にはその日の要点について問う小テストを行うことがある。	
CT画像技術学			○	◎	○	○	臨床の画像診断で用いられているX線CT画像検査について、CT画像の形成原理から画像処理技術、検査を考えるうえで必要な検査計画、CT検査の実践において必要となる撮影パラメータや画像表示法、造影検査に関する医学的知識等を修得する。	
MRI技術学			○	◎	○	○	磁気共鳴で習得したことを発展させ、核磁気共鳴画像(MRI)の重要な画像特性を理解し、臨床に必要な撮像技術や適応などを習得することを目的とし、臨床現場で必要なMRIの画像特性、撮像技術、各撮像部位での適応手法について教授する。	
核医学技術学			○	◎	○	◎	インビトロ検査・診断に用いられる放射性医薬品の特徴、標識法、血清中の微量成分の測定法の原理と精度管理、測定検査項目と疾患との関係および臨床的意義について講義し適宜演習を行うことで全体にわたる核医学技術学の基礎から応用までを理解する。インビトロ検査で用いられる主な放射性医薬品の特性と用途、希釈法、平均採取率検査、造血機能検査、各種シンチグラフィおよびPET/CTなどによるインビトロ検査の原理と臨床的意義、各種検査による生理・生化学的検査に関して最新の核医学治療領域(腫瘍のアルファ線内照射療法、ホウ素中性子捕獲療法)についてもその原理や適用範囲などについて習得する。	
核医学技術学実習			○	◎			放射性同位元素の安全取扱い法および定量的測定法、微量量ベッチングの操作法、標識化合物内の純度測定、測定データ処理法およびラジオイムノアッセイによるインビトロ検査法等の実習を通して、診療放射線技師としての核医学検査や核医学治療に関わる基礎から応用、最新事項などを総合的に学ぶ。	
放射線治療技術学			○	◎	○	◎	外部放射線治療・密閉小線源治療・放射線同位元素内照射法の各治療法ごとに、放射線治療の原理を理解すること及び疾患ごとに適用すべき放射線照射技術と治療計画が説明できるようになることを目的として、直線加速器を用いた3次元体積照射と強度変調放射線治療の放射線計画法と照射法、遠隔操作型ブラックローディングシステムとCOPV12系永久挿入システムを用いた密閉小線源治療の放射線計画法と照射法、放射線同位元素内照射法の放射線治療装置の品質保証・品質管理について教授する。	
放射線治療技術学演習			○	◎			臨床実習を受けるための準備として放射線治療の基礎的知識と、技術の習得することを目的として、放射線治療装置の構造と各部の機能、放射線計測、治療計画システム、線量計算法、吸収線量の測定と計算の方法、品質保証・品質管理の基本、放射線治療における技師の役割について教授する。	
診療放射線技術学			○	○	○	◎	放射線治療の適応となる疾患とその標準治療、治療成績と有害事象を教授する。手術や化学療法との併用方法を学ぶことで、集学的治療における放射線治療の役割を理解させる。	
関係法規			○	◎	○		労働安全衛生法、電離放射線障害防止規則(電離則)、人事院規則、放射性同位元素等の規制に関する法律(放射線法)に記載されている放射線の安全管理に関わる条文について理解することを目的とする。また、診療放射線技師の資格が定められている診療放射線技師法についても学ぶ。	
放射線管理理学			○	◎	○		放射線による外部被曝や内部被曝とそれらの防護方法、及び放射線が人体や環境に与える影響を防護法の精神を理解し、また医療法施行規則に基づいて放射線診療に携わる診療放射線技師が理解しなければならない患者さんや公衆の被曝を管理するための医療放射線防護の考え方、方法を説明できる。また、防護法における放射線の取扱いに関するクリアランス制度の考え方やそれに伴う放射性廃棄物の処理等についても学ぶ。	
放射線管理理学実習			○	◎			医療において医用X線装置の保守点検が義務づけられている。さらに、放射線を使用する領域では線源、施設(放射線取扱管理区域)が適切に管理されなければならない。本実習は、放射線同位元素、施設等の管理を学び、診療放射線技師として考えなければならない管理について習得することを目的として、X線装置を使用したX線装置の管理の基本及び放射線測定器を使用した放射性同位元素と施設等の管理の基礎を実習する。また、防護法における放射線の取扱いに関するクリアランス制度の考え方やそれに伴う放射性廃棄物の処理等についても学ぶ。	
実践医療安全管理学			○	○	○	◎	○	より安全性の高い医療の提供を行うため、医療安全の基礎的知識に加え、院内感染とともに医療事故の「発生原因とその対応」を模索し、放射線機器を含む医療機器及び造影剤を含む医薬品の安全管理を学修する。
実践臨床画像学			○	○	○	○	○	臨床画像学で学んだ知識・技能を用い、医療現場における放射線機器等の取扱い、患者への対応及び検査に関する説明、チーム医療及び他職種との連携、医療情報の取扱いについて実践的に学習する。また、静脈路の確保及び造影剤・RI検査薬の注入手技(注入装置の接続・操作手技を含む)、経管状検査における静脈路からの造影剤注入、抜針及び止血の手技、動脈路からの造影剤注入装置の操作の手技、肛門へのカテーテル挿入からの造影剤及び空気注入・吸引の手技、鼻腔へ挿入されたカテーテルからの造影剤注入の手技、鼻腔カテーテル除去の手技が現場で実施できる実践的知識・技術を身につける。併せて、放射線安全管理学と医療安全管理学で学んだ放射線防護、安全管理について実践的に学習し、病院等で臨床実習を行うのふさわしい技能や態度としての態度を身につける。
実践臨床技能実習			○	○	◎		○	講義や各種実習で学修した撮影法、患者援助・搬送の知識を活用し、臨床現場において被験者に対する応対と基本的臨床技能を習得する。臨床現場を想定した総合的(被験者の安全管理を含む)な実践型実習を行う。その後、学習したことについて、検査場面を想定した模擬患者参加型実習で実践し振り返る。

専門科目

診療放射線技術学

科目名	ディプロマポリシー	主要授業科目	【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】			科目の教育目標
			①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。	③患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	④患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	⑤各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	⑥各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	⑦基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健・医療、福祉分野の多様なニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。	⑧基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健・医療、福祉分野の多様なニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。					
※ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。															
実践医療安全管理学実習			○	○				◎				○		講義で学んだ医療安全管理に関する知識と技術を実践的に活用し、力学的原理に基づく介護・移乗技術、救命救命、医療事故や院内感染、造影剤等による副作用発生など、診療放射線技術としての患者急変への対応を実習を通して学修する。	
診療画像学臨床実習			○	○	○	◎		○				◎	一般撮影をはじめ、各種造影撮影、US、CT、MRI等につき病院での臨床実習で体験する(ペーシエント・ケアに関する自習も含む)。「臨床実習日程表」に沿ったスケジュールに基づき臨床実習を行う。各実習部署に同じ診療領域調整技術、診療支援調整技術、撮影補助技術、撮影技術、画像解析技術、画像検査技術、画像検査管理技術、放射線安全管理技術、救命救命調整技術、感染予防技術、その他安全管理技術などにつき実習行為水準を決め、必須実習項目を修得する。実習期間内に該当する検査が無い場合は実習指導者からの実地的な解説により学修する。		
核医学検査技術学臨床実習			○	○	○	◎		○				◎	診療放射線技術としての臨床業務の内容を修得するだけでなく、人格や見識を兼ね備えた医療人を育成するために基礎づくりの場とする。講義で学んだ基礎的知識を臨床の現場でどのように活用されているのか、更に最新の技術がどのように診療業務で活用されているのかを、実際の診療の現場で体得し理解する。臨床患者に対する検査を通して技術的教育とともに、患者接遇の基礎につき学修する。		
放射線治療技術学臨床実習			○	○	○	◎		○				◎	臨床放射線技術として必要な接遇・コミュニケーション能力を向上させる。臨床現場で見学し、質問することで、講義で学習した放射線治療装置・照射法・品質管理・品質保証に関する知識を確かなものにする。		
臨床医学概論			○	○	○	○		○						臨床医学における疾病の種類や概念について基礎的な知識を修得する。さらに、現在の医療はチーム医療であり、技術や知識の向上に加えてコミュニケーションが重要で、効率的な医療体制のシステム作りが必要であるため、医療の倫理的な背景にくわえてこのような医療システムについても概要を紹介し、将来医療関係者となるための心構えを習得する。	
画像病理学			○	○	○	○		○						画像における病態や疾患の現れ方や所見の成り立ちを理解し、画像検査における異常の有無について判断する技術と知識を習得する。典型的な所見については、疾患の簡単な診断もできるようなトレーニングを行う。単純写真のみならず、CT/MRI/超音波医学PETの断面画像も用いて、画像放射線の知識を利用して、病態や疾患による変化を理解する。	
保健科学			○	○	○	○		○						健康問題の発生や健康課題を概観し、健康管理を支援するための地域保健活動を理解することを目的として、健康問題の発生や健康課題を理解し、地域で生活する人々の健康を支援するために、行政、学校、産業、在宅で行われている支援活動について教授する。	
基礎医学実習			○	○	○	○		○						本実習は、大きく二つの分野(臨床基礎分野と基礎科学分野)に分かれて行う。臨床基礎分野では、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系などの解剖学、生理学、生化学、診断検査や血圧計、心電図などを実際に操作し、その基本概念や操作方法について学ぶ。一方、基礎科学分野では、理化学的な基本操作法や実験データの取扱い、機器分野の実験などから放射線科学としての基礎を学ぶ。これらを通して、医学分野の横断領域基礎と臨床について、基礎的な素養を身につける。	
放射線物理学 I (基礎)			○	◎	○	○		○						原子の構造の理解を通して、種々の放射線が放出される原理及びX線(ガンマ線)と物質との相互作用について学ぶ。適宜、演習やディスカッションを行うことで理解を深める。	
放射化学 I (基礎)			○	◎	○	○		○						原子核と電子からなる原子の構造、また同位体、放射能、結合エネルギー、放射性壊変など、原子がもつ様々な特徴的な性質の基礎や、放射性核種の放射能が壊変により減少する事象に関連する半減期、平均寿命、放射平衡の概念について理解する。	
放射化学実習			○	◎	○	○		○						放射化学の基本は、化学分析、特に無機元素分析化学が基本的要素を占めており、その基本的な実験手法かつ実験データの取得から適切なデータな記録方法(化学実験ノート)の作成、レポートのまとめ方を学ぶ。放射化学の放射線検出だけでなく、非放射性核種も含めて放射化学的的手法を学ぶ。放射能と原子数の関係性から微量元素測定の実験の必要性を習得し、その技術としての機器分析手法(質量分析など)についても習得と実験を行う。	
応用数学 I (代数学・解析学)			○	◎	○	○		○						初等関数の微分及び偏微分、ベクトルと行列、ベクトルの微分、多重積分、微分方程式などについて学ぶ。各単元の区切りでは演習を行い、理解の定着を図る。	
応用数学 II (フーリエ解析・偏微分方程式)			○	◎	○	○		○						放射線科学の専門知識の習得に必要な物理数学の習得を目指し、フーリエ級数とフーリエ積分、偏微分方程式、複素関数について学ぶ。	
電気電子工学			○	◎	○	○		○						電気磁気学、電気回路論(回路素子、直流通路、交流回路)、電気計測等の基礎を学ぶ。学生は、事前に毎回の授業に必要な知識を学んだ後、授業では、要点を講義した後、演習、発表、対話的説明により、内容を深く理解させ、必要な計算力と応用力を養う。	
電気電子工学実習			○	◎	○	○		○						医用機器の動作原理を電気電子工学の基礎知識として理解することは困難である。この授業では、基本的な回路素子の特性を測定するための原理、手法、および各種計器の使用法について解説した後に、実際に電気抵抗の測定や各種液形測定の実習を行う。	
医用工学			○	◎	○	○		○						医療機器に用いられる電子デバイスの特性、アナログ電子回路とデジタル電子回路の基礎理論より医療機器の電気的安全対策を学ぶ。学生は、事前に毎回の授業に必要な知識を学んだ後、授業では、要点を講義した後、演習、発表、対話的説明により、内容を深く理解させ、必要な計算力と応用力を養う。	
医用工学実習			○	◎	○	○		○						実際の医用機器に用いられている電子デバイスや回路について解説した後に、電子デバイスの特性、各種アナログ電子回路、デジタル電子回路に関する実習を行う。学生は、毎回の講義の後、実習を実施しレポートを作成する。	
専門外国語					○	○		○						放射線医療の場や研究活動で日常的に必要な英語を学ぶ。専門用語の学習にとどまらず、基礎科学・放射線医学の内容を原書を通して学び、外国語の知識と共に専門技術への理解を深める。講義と学生による発表とを組合せ、自主的に学習する。題材として放射線技術、放射線診療、放射線治療に関連した英文論文やウェブ教材を利用し、ムービー等の視聴覚資料を利用し、コミュニケーション能力を養う。テーマに沿って英文によるミニレポートを作成し、英訳記述についても学ぶ。	
データ科学入門			○		○	○		○						計算機の基本原理、プログラミングの基礎知識ならびにプログラミング技法について学ぶ。計算機を用いたデータ処理に関する演習を通して、各種のデータ型やライブラリの使用方法を修得する。	
医用情報処理学演習			○		○	○		○						医用放射線技術において必要不可欠である医用情報処理技法を学ぶ。人工言語を用いた基本的なプログラミングができ、信号処理や画像処理へ応用するための考え方や技術を修得できるように目標として、人工言語としてMATLAB/Octaveを用い、プログラミング技法を初歩から学修する。プログラミングの理解と実用を兼ねた課題への回答、レポート作成と提出、理解度確認試験の回答などを行う。ブラウザから作業できる教材を用意しており、毎回の講義の後、各自の理解度に応じた自習形式で演習を実施する。	
国際医療活動論					○	○		○						This course is an introduction to International Nursing and Health, and the concepts of global perspectives on health, and global cooperation and collaboration of nursing and other health care providers. The concepts related to International Nursing and Health include globalization, culture, networks, and global health care situations and problems.	
卒業研究			○	○	○	○		◎				◎		教員が提示した研究テーマに沿って、文献検索の意義と方法、研究計画書の作成方法などの基礎的知識を教授し、学生が個人あるいはグループで研究を遂行し、結果の作成と発表を行う。	